

第 2 回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

○ご意見等

検討ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 国のワーキンググループ中間まとめの考え方は重要であり、この検討委員会でも参考とすべきである。
遠隔授業	<ul style="list-style-type: none"> ICTは、単にコンテンツを配信するだけでなく、他の学校の生徒と切磋琢磨する環境を作れると思う。 各地域で遠隔授業が受けられることは、格差がなくなる点では良いと思う。子ども達と先生の繋がりが大事にされながら進んでいくと良い。
地域みらい留学	<ul style="list-style-type: none"> 地域みらい留学生の発表の場が高知県にもあれば良い。少しずつ高知県をPRしながら、留学生を増やしていただければと思う。 特徴を顕著に表して、ブランディングしていくことが戦略として必要である。部活動等で他にはないものを提供し、地域と一緒にブランディングしていくことが大事である。 1つの方法ではなく、いろいろな形で家族を受け入れる方法があった方が良い。
中山間地域再興ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域では、様々な部活動をおくことはできないが、生徒を県外から呼ぼうとすると、特徴のある部活動に集中し、地元の生徒は地域から出なければいけないこともあり、地元進学率の目標50%は難しい数字だと思う。地元の中学校と連携しながら、その地域で活性化していく必要がある。 高校は中山間地域再興ビジョンを引っ張っていく立場にならないといけないと思うが、少し受け身に感じる。
魅力化・特色化	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学対策を講じるのは受験時ではなく、小中学校を巻き込んだうえで、地域の協力を得て地元を盛り上げる活動に繋げていかないと根付くことはない。魅力化・特色化においては、義務教育も考慮した方が良い。 地域に学校がなくなるのは寂しいことだと思う。地域でのアピールや盛り上げていく部分で、中山間地域の学校には頑張ってもらいたい。 地域をあげて地元の高校を大切に作る雰囲気づくりは大事であり、中学校は高校の魅力を発信しなければいけない。何のために高校に行くのかを含め、高校の特色を明確にアピールしてもらいたい。 高知県もこれから産業を充実させ、人口を増やすと考えると、地域にある高校で日本語の支援や様々な取り組みにて魅力化に繋げていくことも考える必要がある。 高知県が取り組んでいく産業について、県内の子ども達はあまり興味がない。それを目指した子ども達が育ってくれれば良い。 高知県の子どもが少なくなってきた中で、高校の特色をもっと出さないといけない。 大学受験の際に、普通科で広く勉強することがそれほどメリットになっておらず、普通科の議論も非常に重要である。 県立と市町村でうまく連携が進まないところもある。国の中間まとめにて、都道府県と市町村の連携・協力による学校運営についてニーズを聞き取りながらとあるため、やってみたい自治体があればあげていただけたらと思う。 市町村や県、中学校・高校の連携を強化し、地域も地元の学校の良さを認識し、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要である。県教育委員会内でも壁があると感じており、地域の高校と小中学校の連携課題に繋がると思う。 ICTの普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方は変わってきて良いと思う。中山間地域の学校は、そのようなところを配慮して考えていけば良い。